

みどりの大使 が行く!



......
2026

ミス日本みどりの大使

ながた まなみ
永田 愛実

皆さん、こんにちは。永田愛実です。

みどりの大使になる以前は森を見ると「自然がきれいだな」と感じるものがほとんどでしたが、大使としての取材や活動から色々学び、今では「何の木だろう」「誰が育てたのだろう」「どんな想いが込められているのだろう」と、その森が育まれてきた長い時間や、そこに関わる方々の姿を自然と思い浮かべるようになりました。森を見る視点が変化してきたことを実感しています。



チェーンソー講習

神奈川県自然環境保全センターで、2日間にわたるチェーンソー特別教育を受講しました。受講者は、長年林業に携わっているベテランの方から、若い方まで様々でした。

座学では、チェーンソーの構造や点検・整備の方法、伐木作業の基礎知識、関係法令などについて学びました。その中で最も心に残ったのは「事故」についてのお話です。チェーンソーは使い方を誤ると危険な道具だということは知っていましたが、実際の事例やデータを見ると、林業の現場では想像以上に死傷事故が多く、何十年も林業に携わるベテランの方でも例外ではないと知り、とても驚きました。「慣れているから大丈夫」という考えは通用せず、どれだけ経験を積んでも、一瞬の気の緩みが大きな事故につながることを学びました。

講義後、正直「自分に扱えるのだろうか」と怖さが大きくなっていました。その時、先生がおっしゃった「怖いと思う気持ちは悪いことではない。その怖さを忘れてしまうことの方が危ない。」という言葉が今でも



心に残っています。不安な気持ちは決して弱さではなく、安全に作業するために必要な感覚なのだと思えました。だからこそ、一つ一つの手順を確認し、焦らず、基本を大切にすることが何より重要なだと学びました。

初めてチェーンソーを動かした時は、エンジン音や手に伝わる振動にとっても緊張し、実技が終わった後もしばらく手の震えが止まらなかった。ですが、その緊張感があつたからこそ、一つ一つの動作を慎重に確認しながら取り組むことができたのだと思います。今回の体験を通して、現場でチェーンソーを使いこなす、安全第一に作業されている林業従事者の皆さんの技術や安全への意識、責任感の大きさを改めて実感し、尊敬の気持ちでいっぱいです。チェーンソーの扱い方だけでなく、安全を最優先に考える姿勢を学んだ貴重な2日間となりました。

愛実のつなぐ・届ける・森の声

「自分の姿を見せて仕事をしろ」

この言葉は、林材業安全技能師範の目時敬之先生の言葉です。最初は、「どういう意味だろうか?」と不思議に思いました。お話を伺うと、チェーンソー作業で着用する鮮やかなオレンジ色の作業服には、森の中でも周囲の人達から自分の居場所が分かるようにするという大切な役割があるそうです。目立つ色には、仲間同士がお互いの安全を守るという意味が込められていました。森の仕事は一人で没頭するのではなく、仲間が存在を確認しながら進めることが大切なのだと思えました。森づくりは、担い手の方々が自らの命を守るための知恵や安全への工夫によって支えられていることを実感しました。

